

## 中小企業経営と政策

2024.6.11.

小高愛二郎

## 1) 少子化・人口減少

地方での人手不足の実情は都会と変わりなく、外国人労働者の雇用も菓子業界でもままならず深刻です。特に極端な円安は海外からの労働者にとってはマイナス要因になっています。

## 2) 経営者の高齢化と後継者不足

中小企業の高齢化は、オーナー一族の家庭の事情が主課題ですが、後継者については株式などの継承が、高額な株価と資金不足により経営を引き継ぎにくいのが実情と思います。また相続により株式の分散は中小企業の経営基盤を揺るがすため、この相続と株式の後継者への移転は課題が大きいと思います。結果、ファンドの狙われる結果となります。短期的には良いようですが、その後の転売により働く従業員の生活を守れなくなるケースが有ります。

日本の税法の見直しが必須です。

## 3) 構造的な人手不足

働き方改革が悪いとは言いませんが、あまりにも短期的な改革に対応しきれていない企業が多いと思います。中小企業の中堅社員は、残業で稼ぎたいのが本音であり、また慢性的にならない限りは余剰人員を抱えずに経営をしてきた中小企業。もう少し時期などの配慮があればと、今更ながら思います。

## 4) 30年ぶりの賃上げ

極端な円安によるあらゆるコスト上昇の中、賃上げどころでは無いのが実態です。コロナ禍が明けて経済が回りだしたとたんに、異常な円安と人手不足、賃上げラッシュと、上げざるを得ない人件費、値上げにも限界が有り、数年後にはボディーブローが効いてきそうです。慢性的赤字。この異常な円安を是正しないと自滅になりそう。（\$ = ¥120 台が理想）輸出しても早々実益につながるまで時間が必要。また輸出で稼ぐ昭和の時代と勘違いをしている政治家がいたら時代錯誤も良い所。

- 5) 原材料・エネルギーコスト  
国際相場の高騰は過去にも経験済み。また一時的な相場の高騰は先を読みながら対策が可能ですが、この異常な円安は経済対策の失態以外にありません。  
120 円台なら対応可能。全てのコストが円安で上昇し、賃金どころでは無い。
- 6) 円安について  
日本の企業が海外のファンドに買われてしまい、日本の企業の長期定期視野にたった経営が崩れそう。世界の大資本の中で日本の企業が生き残れている長所が崩されてしまう。長期的競争力の低下につながります。  
円安による物価高は国民の生活を圧迫するだけで、好景気インフレにはなりにくい。一部の経済指標は実態を反映していない実情に気づいてほしい。現場・現実・現物の精神で。
- 7) 日銀のマイナス金利からの転換  
むしろ遅すぎ。すべては異常な円安が物価のいびつな上昇を招き、消費の低迷、苦しい生活者。ゾンビ企業の存命のために多くの社会的利益を損ねている実態を知るべき。ほとんど日銀の都合でしかないように思います。  
日銀の都合、社会の不都合です。金持ち温存、住宅価格の上昇、外国人の投資が多過ぎ。これらの状況を実態で検証してもらいたい。
- 8) DX  
どっかの省庁の規制が余計で、やるべき規制が遅れて、自由性が損なわれているような印象です。
- 9) カーボンニュートラルとGX  
取り組む企業への支援と社会的教育が不可欠。これも中小企業のコスト上昇の要因ですが、これは対応必須だし従業員も協力的。  
EUはやりすぎ、日本は遅すぎ。

\* この異常な円安がなぜここまで放置されたのか、全く理解に苦しみます。日本の将来がどうなるか分からないはずが無く。この円安は日本のたたき売り状態で、その利益が 10 年 20 年後に海外へ流出する資産です。恐ろしいです。

以上